

ふる〜ぶ

Fleuve:「ふる〜ぶ」はフランス語で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1
page

【特集】

吉野川アラカルト

北の大地に連綿と伝わる徳島文化。
移住者たちの子孫を取材。

徳島北高校の生徒さんが、明治時代に
北海道へ移住した方々の子孫を取材しました。

3
page

吉野川いまむかし

貞光川編

4
page

ふる〜ぶ編集部がおじゃまします！

徳島中学校

「出会いと発見の3日間

～初めての職場体験学習～」

5
page

ふる〜ぶめいと通信

えつとぶり(むかしぶり)に渡し船復活

—吉野川 川島の浜渡しを再現—

そばと伝統料理

6
page

Ra♪Ra♪Ra♪エッセイ

フレッシュハーブのシフォンケーキ作りに
チャレンジしましょう!!

ふる〜ぶ INFORMATION

親子で作ろう わらぞうり!

7
page

よりよい吉野川づくり(第18回)

もう素案をご覧になりましたか?

＝内水対策＝

ふる〜ぶひ・ろ・ば

編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント



北の大地に連綿と伝わる徳島文化。 移住者たちの子孫を取材。

明治の開拓期、徳島から遠くはなれた北海道へ、多くの人々が渡りました。

1869年(明治2年)北海道開拓のために、明治新政府の機関である開拓使がおかれると、開拓事業が本格的にスタートしました。徳島から、北海道への移住は、なんと15,543戸(明治19年～大正11年)で、全国都道府県のなかで、11番目に位置しているのです。

毎月発行しているふる～ぶが50号を迎えた2004年4月、別冊の特別号を発行し、『阿波と開拓者たち～吉野川から北の大地へ～』というテーマで特集を行い、移住者の子孫の方にお話を伺いました。

2004年4月発行の
50号記念特別号



余市川

ある日の出来事

「別冊の特集号での取材先をご紹介いただけないでしょうか」

今年のある夏の日、編集部一本の電話。徳島北高校 放送部副顧問 鏡石浩史先生からでした。

先生によると、徳島北高校放送部では、郷土の文化や、吉野川に関する作品づくりを行ってきており、以前から徳島県と他県とのかかわりをテーマにした作品を作りたいと思っていたそ

うです。そこで県立文書館の立石恵嗣先生に、ご意見を伺い、移住者が多く、徳島の文化も息づいている北海道を取材することに決まったということ。

そこで、橋わたしをさせていただき、秋の気配も感じ始めた頃、その時の様子は、どうだったのか、徳島北高校へ出かけました。



仁木町 ●札幌市 ●新ひだか町 静内



入籍した奥の15代当主
稲田邦雄の第1号。16代当主となった

稲田家の資料館にて撮影



稲田家に伝わる狛犬

人の温かさにつれる

「自然もそうだけど、人があたたかかった。やさしさのスケールが違う。もう感嘆のひとつことです。静内で阿波踊りを見たときは、素直にうれしかった」

仁木連のみなさんと



札幌お多福連の方と

とカメラ担当河野佑紀くん。「行くまでは、どんなところなのか、不安だったけど、みなさん温かく

もてなしてくださった。移住者が伝えた藍や、阿波おどりなど、徳島の文化が、

北海道に息づいていることがすごい」と、インタビューとアナウンス担当間野なつみさん。

北海道を訪れたのは、7月21日から24日まで。取材先は、かつて阿波藍が栽培された札幌市篠路、開拓当時の住居が移築されている北海道開拓の村。稲田家が移住した新ひだか町静内では、郷土資料館と、全道阿波踊り大会。吉野川の川中島である善入寺

仁木連連長 佐坂秀樹さんインタビュー風景
佐坂さんは古野川市善入寺島より、仁木町へ移転した家の子孫



た。仁木町では、教育委員会の方が、一日中、一緒に取材先を回ってくださったり、静内では、踊りの合間に一緒に、晩

ごはんを食べたり、阿波踊り連の方が、札幌までバスを出して送ってくださったり。そのほかの場所でも、とてもあたたかく対応して下さったそうです。

「やさしく、そして、真摯に対応して下さった。皆さんが真剣に向かい合ってく下さったから、生徒にもそれが伝わり、成長につながったのではないのでしょうか」と鏡石先生。部代表でいるふたり。他の部員への責任もあります。朝から晩までスケジュールは、びっしり。先生が、体調を心配したほどの取り組み方でした。カメラワーク、録音技術などは、四日間で、格段の向上が見られたとか。そうして、撮影された映像は、なんと9時間にも、およぶそうです。

島よりの移住者の名前が、町名になっている余市郡仁木町。徳島から、遠い北海道へ渡り、苦難を重ねて、生き抜いてきた人々の足跡をたどり、その子孫の方々にインタビューしまし

四日間を振り返って

また、四日間を振り返り「気候も、環境も異なる北海道で、なにもない状態から、生活をはじめた開拓者の人々。その生活は、我々が想像できないような厳しい世界ではなかったでしょうか。その困難を切り抜け、暮らしを確立していくことができたのは、同じ郷土の人々の支えあい、励ましあう力が大きかったと思います。時には、郷土の文化を思い出し、藍産業で栄えた徳島県

民の誇りを持ち、生き抜いていった開拓者の生き方には、現代に生きる我々にとっても教訓とする点が多いように思います」とまとめてくださいました。

同じ郷土の人間同士、人と人とのつながりを大切に、生き抜いてきた開拓者の子孫に出会った今回の取材。「出会った方たちは、みんな自分たちの住んでいる場所を愛している。徳島から伝わった文化も愛している。私も、徳

島を知り、もっと愛していきたい」(岡野さん)「いろいろな方たちに出会って、そのやさしさに触れた。徳島に伝えていきたい」(河野くん)二人にとっても、水に浸されたスポンジのように、多くのものを吸収し、自分たちの住むふるさと徳島について、考えるよき機会となったようです。この作品を出品する11月の徳島県高等学校総合文化祭が楽しみになってきました。

自分たちの住むふるさとについて

このように、郷土についての作品づくりに取り組む徳島北高校放送部の皆さん。自分の住んでいる徳島について、「もっとテーマパークや、コンサートが出来る芸術ホールがあればいい」「自分の住んでいる近所は、山が多いし、心がほっとする」「観光客の人が、住みたいなあと思う場所がいい」「あんまり、背伸びせず、徳島らしさのあるままでいいほしい」などさまざま。でも、その言葉の端々に、ふるさとに対するやさしい気持ちが感じられ、うれしく

なりました。今後、とりあげたいテーマについても、「徳島の竹人形の外国の反応」「阿波弁をテーマにしたい」「友達で、徳島にはなにもないので嫌い、という子がいる。その友達が、いろんな徳島を知り、好きになっていく様子を作品にしたい」など郷土色豊かなテーマが多くあげられました。「豊かな自然とすばらしい伝統文化がある徳島。普段の授業のなかでは、学ぶ機会が少ないので、作品づくりを通じて、郷土を愛

する気持ちを育てていきたい」そうおっしゃっていた鏡石先生。先生の気持ちは、充分生徒たちに通じているように思いました。



集まってくれた部員のみなさん

吉野川
いま
むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

貞光川編

美馬郡つるぎ町一字の丸笹山(標高1712m)付近を源流とし、
一字・貞光を流れて吉野川に注ぐ長さ25.3kmの貞光川。
阿波の国を拓いたとされる尾部氏が朝廷へ献上した荒妙の
原料となるユウ(こうぞ)マ(麻)を貞光川の水につけて皮をはぎ織ったという
言い伝えもあり、古くから木綿や麻の産地でもあることから
木綿麻(うすき川)と呼ばれています。
今回は貞光川下流の写真を紹介합니다。

昔



[所蔵]西岡フデ子さん

昭和38年8月に西岡さんが撮影したもの。
長橋の上流付近。お友達や家族と一緒に
貞光川に泳ぎに行ったときの一枚。この頃
は、毎年のように貞光川に泳ぎに行ってい
たそうです。「川の中も小砂利できれい
でしたよ」と話してくださいました。

昔



今



長橋付近

現在は泳いでいる人はみかけませんが、子供た
ちが、プール代わりに昭和50年前半頃まで貞
光中学校の前あたりの川で泳いでいたそうです。

[所蔵]道の駅 貞光ゆうゆう館
長橋付近

昭和40年代と思われます。河川敷
で野球をしている人達がいます。

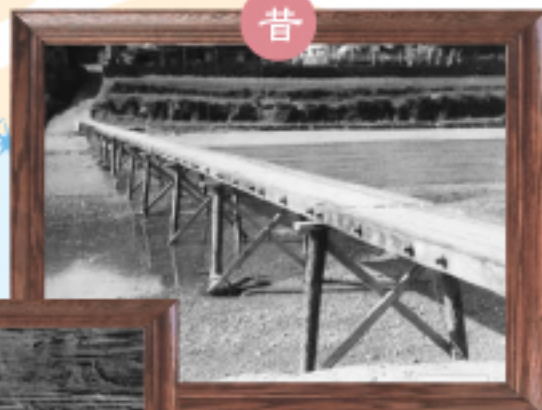
今



長橋付近

同じ場所から撮影。現在は横断歩道
もでき、規制標識も建てられています。
人々の生活道として利用されています。

昔



旧八幡橋

[所蔵]道の駅
貞光ゆうゆう館

ゆうゆう館の方のお話によると、昭和30年代ごろと推測。
平成2年7月までたばこの専売公社が八幡橋の近くに
ありました。

今



八幡橋

鮎つりのポイントと
して知られています。

昔



ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

徳島中学校 の巻

徳島中学校では、総合的学習の一環として職場体験学習を、今年度初めて開催しました。2年生149名が57のグループに分かれて公共や民間の事業所で、さまざまな体験をし、徳島河川国道事務所にも3人の生徒が9月26日〜28日まで職場体験を行いました。

「職場体験3日間」

NPO法人新町川を守る会理事長 中村 英雄さんにインタビュー

◆小山 裕矢 ◆福原 充宏 ◆谷 弘毅

ひょうたん島クルーズに乗って中村さんに質問したり話を聞いたりしました。

…人柱…

船に乗り揺られていると、福島橋で石の支柱が見えてきた。すると、中村さんが「あれは、人柱伝説がある橋で、初めて通った人を生き埋めにし、水害を治めた。それは、お坊さんだった。」という伝説があると、おっしゃっていた。人柱とは、橋が洪水で壊されることが多く、架橋の必要に迫られても難工事続き。そこで、流されないように、

通りかかった人を犠牲にし、その後、橋が立派に完成したという話らしいです。ちょっとドキッとしました。

…水辺の生き物 アイガモ…

船に乗り、周りの風景を眺めているとかわいいアイガモが羽づくろいをしていた。とてもかわいかったので写真を撮りました。ひょうたん島クルーズの乗り場にもいますので、是非見に行ってください。



真剣に熱心に答える中村英雄さん

「出会いと発見の3日間」初めての職場体験学習



NPO法人新町川を守る会 理事長 中村英雄さんと一緒に撮影。
向かって左から小山 裕矢君、福原 充宏君、谷 弘毅君。

Q.主にどんな活動をしていますか?

A. 川の掃除などをしています。毎月一日と第三土曜日に行います。十五人ほど集まります。平成二年の四月一日から始めています。

Q.活動をしていて、嬉しかったことは何ですか?

A. 川がきれいになっていき、きれいになっていくにつれて、川を人々が見てくれるようになっていったことです。

Q.新町川をきれいにするために、私達は何を心がければいいですか?

A. 掃除に参加したり、川に遊びに来たりと、川に近づくことが大切です。(一部要約)

ひょうたん島
クルーズ
Q&A

…「こんな所に行きました」…

【9月26日】◆2007年に完成の角の瀬排水機場の工場の現場。◆河川リトリール

【9月27日】◆文化の森にできる法花トンネル◆NPO法人新町川を守る会・ひょうたん島クルーズ体験取材

【9月28日】◆国土交通省の隣の防災センター

3日間の体験取材をまとめました。

特に印象的だったのが、二日目の工事の時に見た、日本に二台しかないテレビマシーンが、すごく大きくて驚きました。これは、法花トンネルのような天井と地上の厚さが三メートルしかないので、工事中に天井が崩れないようにするための機械です。

皆さん、三日間お世話になりました。



初めての体験が多かったのですが、行った場所それぞれで担当を決めて、積極的に質問をしていました。写真撮影も上手で熱心に話をきいていました。取材のとりまとめ作業の時には、一生懸命写真をえらび、原稿にする内容も考えてくれました。多くのことに興味をもち、地域を大切にすることを、いつまでも、もっていてほしいと思いました。



「ふる〜ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと レポート

「えっとぶり(してしぶり)に渡し船復活」 —吉野川 川島の浜渡しを再現—

吉野川市
今中 忠重さん

9月23日吉野川市青年会議所の皆さんが、吉野川の川島と対岸の普入寺島を結んでいた「川島の浜渡し」(通称川島の渡し)を一日だけ復活させました。

この渡しは川島潜水橋ができる四十年余り前まで地元
の皆さんや10番切幡寺から11番藤井寺へのお通路
さんがよく利用する重要な渡

しだったそうです。三
年前と四年前に再現の
試みがありましたが、そ
の後は中止されていました。

当日は早朝から参加者
も手伝って堤防上の草刈り
や清掃をした後、アユ漁に
使う「かんどり舟」で渡しが始められました。快晴で水
量も流れもベストコンディション。すばらしい吉野川の

景色を眺めながら十数分の舟遊び?そして舟を降りると、
そば米雑炊や栗ご飯、アユの塩焼きのお接待、さらに子
どもさんにはアユのつかみ取りや笹舟づくりのコーナ
ーもあって皆さん大満足の様子でした。

同時に吉野川渡し研究会の皆さんによる貴重なかつ
ての渡しの写真展があり、なつかしい写真、めずらしい写
真に見入る人たちで賑わっていました。

私にとっては二度目の参加。「ずっと続け
て欲しいなあ」との思
いと「主催する青年会
議所の皆さんは大変
だろうなあ」との思い
の複雑な気持ちで会場
をあとにしました。



めいと レポート

「そばと伝統料理」 つるぎ町 大塩 邦光さん

8月下旬に、蒔いたそばは、9月中旬には畑一面を
白い花で彩ります。そばは、成長が早く二ヶ月で収穫でき
るので、吉野川沿川の山間地では、今も栽培されています。

美馬市の三頭トンネルは、標高500mで、近くでは高冷
地野菜の栽培が盛んですが、9月中旬から下旬になると、
そばの白い花で、付近の景色が一変します。以前には、標
高の低いところでも作られていましたが、現在では、山間
地に多く作られています。

そばの実は「手打ちそば」や「そば米雑炊」として利
用されますが、なかでも、「そば米雑炊」は、徳島県独特
のもので、高校生が伝統料理として将来残したいナンバ
ーワンに挙げています。

地元でとれたそば
を食材とした伝統郷
土料理として、いつま
でも伝えたいものです。



このコーナーでは、「ふる〜ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

フレッシュハーブの
シフォンケーキ作りに
チャレンジしましょう!!

秋も深まり、休眠期を前にセージの花々はより一層美しさを増しています。今回はパイナップルセージの葉と花、レモンバームを使ってミニシフォンケーキを作りましょう。

材料

- ◆ペーパーカップ205mlサイズ…14個分
(上側にハサミで5mm位の切り込みを入れておく)
- ◆パイナップルセージの葉と花、
レモンバーム…適量
- ◆薄力粉…100g
- ◆ベーキングパウダー…小さじ1
- ◆卵白…6個分、卵黄…5個分
- ◆グラニュー糖…120g
- ◆牛乳…90cc
- ◆サラダ油…90cc

作り方

1. 薄力粉とベーキングパウダーを混ぜ、一度ふるう。パイナップルセージとレモンバームの葉は細かく刻んでおく。卵は常温になるよう冷蔵庫から出しておく。
2. 常温の卵を卵黄と卵白に分ける。
3. 卵黄をハンドミキサーでかくはんする。グラニュー糖の1/3の量を加えながら白っぽくなるまで混ぜる。これに、サラダ油、牛乳の順に加えよく混ぜる。
4. [3]に[1]の粉とパイナップルセージの葉と花、レモンバームの葉を加え、泡だて器でさつくり混ぜる。



5. メレンゲを作る。ボールに卵白を入れ、ハンドミキサーで勢いよく泡立てる。残りのグラニュー糖を3回に分けて加えながら、角が立つまでしっかりと泡立てる。
6. [4]に[5]のメレンゲの1/3量を加え、ゴムベラでさつくりと混ぜ合わせる。さらにメレンゲの残りを2回に分けて加え、泡を潰さないように混ぜ合わせる。
7. 天板にペーパーカップを並べ、生地を14等分づつ入れ、軽くトントンと空気を抜く。
8. 温めておいた180℃のオーブンで約20〜25分焼く。
9. 焼きあがったら熱々を天板の上に逆ひっくり返す。
10. 冷めたら元に戻し、乾燥しないように1個づつ小袋に入れる。

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も
務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

ふる〜ぶ INFORMATION

親子で作ろう わらぞうり!



わらぞうりとしめ縄づくり参加者募集のお知らせ

毎年大好評をいただいているわらぞうり教室を今年も開催します。
また、簡単に作れるしめ縄づくりにも、チャレンジ。
ふる〜ぶめいとを講師に、親子で楽しい時間を過ごしましょう。
昼食には、こちらも、毎年好評いただいている芋がゆをみんなで食べます。
たくさんのご応募をお待ちしています。

講師 吉野川ファン通信 ふる〜ぶ
「ふる〜ぶめいと」のみなさん

日時 平成18年12月3日(日)

場所 石井河川防災ステーション
名西郡石井町藍畑西寛円

参加費 200円

募集人員 小学生と保護者 10組20名

申込締切 平成18年11月24日(金)

申込方法 参加する人の氏名、年齢、住所、電話番号をご記入のうえ、はがき、または、FAXでお申し込みください。

〒771-1156
徳島市応神町応神産業団地13-28
申し込み先 ふる〜ぶ編集部
「わらぞうり」係
TEL&FAX 088-623-6085

